

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 5 日現在

機関番号：34310

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2020

課題番号：19K23120

 研究課題名(和文) The japanese-italian relations and the issue of treaty revision in the 1880s:  
focusing on the italian foreign policy toward Japan in the early Meiji Period

 研究課題名(英文) The japanese-italian relations and the issue of treaty revision in the 1880s:  
focusing on the italian foreign policy toward Japan in the early Meiji Period

研究代表者

Pozzi Carlo・Edoardo (Pozzi, Carlo Edoardo)

同志社大学・文学研究科・助手

研究者番号：10844102

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 400,000円

研究成果の概要(和文)：1. 秋田県所在の日本の養蚕組合である川尻組による北イタリアでの販売事業に関する様々な事項を解明することで、1880年代におけるイタリアへの日本産蚕種輸出の減少が日伊間の条約改正交渉に与えた影響に光を当てました。  
2. 明治初期の日伊外交関係において駐イタリア日本特命全権公使鍋島直大(在任：1880-1882年)、そして駐イタリア日本特命全権公使浅野長勲(在任：1880-1882年)が果たした役割について考察した。その結果、条約改正問題の解決を重視していた井上外務卿の外交政策に沿って、明治初期において彼らが日伊間の外交関係を深めることを目指した戦略的かつ積極的な役割を果たしたという結論に至った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は19世紀においてイタリア王国が日本で果たした役割を再評価し、この国が日本との蚕種貿易関係、そして条約改正問題に対するその外交政策を通じて明治政府の対外方針において戦略的重要性を持っていたことを解明した。そうすることで、本研究の結果の影響により、明治時代における最初の日伊関係に関してはもちろん、近代日本と他国間の国際関係に関しても様々な新しい反省や発見を発生させることが期待されている。

研究成果の概要(英文)：1. By focusing my analysis on the the trade activity that the silkworm eggs company Kawajiri-gumi from Akita Prefecture performed via its branch office in in northern Italy, I shed some light on the impact that the decline in demand for Japanese silkworm eggs from Italian in the 1880s had on the treaty revision negotiations between Japan and Italy.  
2. I examined the diplomatic activities conducted in Italy by the Japanese Minister Plenipotentiary to Italy Nabeshima Naohiro (in office between 1880 and 1882) and by his successor Asano Nagakoto (in office between 1882 and 1884). As a result, I come to the conclusion that that they played a strategic role in developing Japan-Italy treaty revision relations in line with Foreign Minister Inoue Kaoru's foreign policy during the early years of Meiji era.

研究分野：History of international relations

キーワード：Treaty revision Jpn-Italy relations Inoue Kaoru Silkworm eggs trade Nabeshima Naohiro Meiji Era Asano Nagakoto Unequal treaty

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

同志社大学で博士論文として行った研究においては、19世紀の終わりに第2代ジェノヴァが果たした2度の来日を中心に、可能な限り詳細に1870年代におけるイタリア王国と日本の間の最初の条約改正関係を扱った。その後、前述の博士論文で行った研究をさらに掘り下げて、1880年代に渡って進んだ日伊条約改正関係を検討することにした。その理由は以下の通りである。

イタリアでは、明治時代における日伊間の条約改正交渉について、詳細に検討した研究者がいまだかつて見受けられなかった。さらに、私が本研究課題の申請した際に、この研究テーマについてイタリア側の未刊の一次史料を用いた研究はもちろん、日本側の公文書館で保管されている記録文書を詳細に活用した研究も日本でもまだ行われていなかった。そのため、これらの史料を用いて、条約改正問題に対するイタリア側の役割と政策を詳細に追究する必要があった。確かに、イタリア王国を含む各国と明治政府の間の条約改正交渉を扱った石井孝(1977)、鹿島守之助(1970)や大石一男(2008)などの先行研究があったが、いずれも明治初期での日伊条約改正関係について、詳細に検討を加えていたわけではない。

## 2. 研究の目的

そこで、本研究では、両国で集めた未刊史料を活用し、条約改正問題を中心に、1880年代に渡って進んだ日伊間の外交貿易関係の過程について可能な限り包括的な検討を試みた。特に、本研究の主な目的は、日本に対してイタリア王国が取ろうとしていた外交政策、そして明治政府の対外方針において同じ国が持っていた経済的かつ戦略的重要性の程度を解明することであった。

## 3. 研究の方法

前述の目的を達成すべく、日本で行なわれた先行研究において紹介された要点を押さえた上で、主にイタリア外務省歴史外交資料館(Archivio Storico Diplomatico del Ministero degli Affari Esteri - ASDMAE)とイタリア国立公文書館(Archivio Centrale dello Stato - ACS)に保管されている未刊の一次史料(書簡)を活用し、この史料に日本での史料を補足する予定だった。しかし、コロナ感染拡大の影響で、イタリアへ行けなかったため、十分に日伊間の条約改正交渉に関するイタリア語での史料を収集できなかった。そこで、博士後期課程在籍中にイタリア(特に、イタリア外務省歴史外交資料館)で集めた外交的史料に加え、主に日本記録保管所(特に、外務省外交史料館、国立公文書館、秋田県公文書館、そして佐賀県立図書館)に保管されている未刊史料(書簡、公文書、新聞記事など)を活用することで、最終的に以下の研究成果を達成した。

## 4. 研究成果

(1) 「学ぶ」の第13回大会における発表では、イタリア共和国の大使・領事を含む聴衆の前で、同志社大学にて外国人留学生助手として行っていた、1880年代に進んだ日伊条約改正関係に関する自身の研究を紹介した。特に、条約改正問題をめぐる井上外務卿(在任:1879-1887年)と大隈外務卿(在任:1888-1889年)の外交政策について簡単に述べ、それらの政策においてイタリア王国の国際的役割が持っていた重要性を強調した。それゆえ、蚕種・蚕糸交流を中心にしてきた当時の日伊貿易の状態を踏まえた上で、主にイタリア王国と日本の外交官たちの外交活動を検討することで1880年代における日伊間の条約改正関係を研究する必要性を説明した。

(2) 「EAJS」の第3回日本国際会議における発表、そして「MEDITERRANEA: RICERCHE STORICHE」(パレルモ大学)第50号に掲載された論文では、1880年代の前半に危機に陥り始めたイタリア向けの日本産蚕種輸出を中心に、秋田県所在の日本の養蚕組合である川尻組がトリノ(イタリア北東部)でのその出張販売所を通じて1880年から1885年の間にイタリア養蚕家向けに行った蚕種(つまり、蚕の卵)の直接販売活動を詳細に検証した。その結果、現在まで十分に明らかにされていなかった、イタリアでの川尻組の販売事業に関する様々な事項を解明することで、イタリア向けの日本産蚕種輸出をできるだけ長く保護し、継続するための意義深い試みであったという結論に至った。検討内容は次のとおりである。まず、外国人の蚕種商人に対する詐欺が頻繁に発生していた在横浜絹市場を迂回し、高品質の蚕種の直接販売を通じてイタリアのシルク生産者の信頼を得ることを目的として、1878年に川尻組の頭取、川村永之助(1841-1909)はイタリア語の習得と当地での貿易の可能性を探るために彼の従業員2名をトリノへ派遣した。1880年には川村自身がトリノへ赴き、同年7月2日に自社の出張販売所を設立した。また、イタリア向けの日本産蚕種輸出の減少を引き起こしていた蚕種の「粗製濫造」に対抗する目的に、イタリアにおける川尻組の代表者(大橋淡、川村恒蔵、平元弘)は群馬県の島村組のミラノでの代表者と蚕種商人大谷幸蔵と共に日本の絹市場の改革案を起草した。その上、イタリアへの日本産蚕種輸出の減少に対抗する川尻組の努力は日本政府にとってのイタリアとの蚕種・蚕糸・絹市場での経済関係においても重要な存在であった。そのため、1885年、大蔵省・農商務省の大書記官前田正名と駐イタリア日本領事カルロ・カンピアギ・ロカテリの支援を得て、川尻組の在イタリア

出張販売所による蚕種輸出は日本の蚕種輸出総額の約4分の1を占めた。

(3) 「イタリア学会」の第67回大会における発表、そして「ORIENTALIA PARTHENOPEA」(ナポリ東洋大学)第19号に掲載された論文では、駐イタリア日本特命全権公使浅野長勲(在任:1882-1884年)の外交活動について可能な限り包括的な検討を試みた。その結果、イタリア王国に対する日本政府の外交政策に沿って、明治初期において浅野公使が日伊間の外交関係を深めることに貢献し、重要な役割を果たしたという結論に至った。検討内容は以下のとおりである。まず、浅野公使はイタリア国王・王妃をはじめとする有力者らと密接な友情関係を築き、1879年から1881年の間にジェノヴァ公トーンマーズ・ディ・サヴォイア王子が蒸気コルベット艦「ヴェットル・ピサーニ号」の大洋横断航海の中で果たした2度目の来日が可能にした両国間の友好関係の強化プロセスにおいて貢献した。また、浅野長勲は在イタリア日本公使としていわゆる「不平等条約」の改正を目指していた明治政府の広範な計画に組み入れられ、当時の外務卿井上馨による条約改正案をめぐる日本の要求に対するイタリア政府からの支持を得ることに成功した。その成功においては、在ベルリン日本公使館の書記官アレクサンダー・フォン・シーボルトと旧駐日イタリア特派全権公使レッサンドロ・フェ・ドスティアーニ伯爵のサポートもあった。その上、イタリア王国の武器や大砲が天皇と閣僚の好奇心を喚起した時期にあたり、浅野公使は陸軍省向けのお雇い外国人として砲兵技術の専門家の2人(すなわち、砲兵少佐ポンペオ・グリロと大砲製造技手長ダリオ・ガルベロ)を雇い、日本に派遣する責任、そして1874年4月にローマを訪れた当時の陸軍卿大山巖をもてなす責任を負い、軍事面での日伊交流の発展に対しても大きく貢献した。

(4) 「文化史学会」の2019年度大会における発表、そして「イタリア学会誌」(イタリア学会)第70号に掲載された論文では、明治初期の日伊外交関係において駐イタリア日本特命全権公使鍋島直大(在任:1880-1882年)が果たした役割とその歴史的意義について考察した。イタリアにおける鍋島公使の外交活動について可能な限り包括的な検討を試みた。その結果、条約改正問題の解決を重視していた井上外務卿の外交政策に沿って、鍋島公使が明治初期において日伊間の外交関係を深めることを目指した戦略的かつ積極的な役割を果たしたという結論に至った。検討内容は次のとおりである。まず、鍋島公使は、ジェノヴァ公の2度目の来日に当たりジェノヴァ公と、そして自身の在任中にはイタリア国王・王妃と強固な友情関係を築き上げ、イタリア王室から手厚い待遇を受けた。また、西欧の文化・マナーに関する詳しい知識、そして在ローマ日本公使館において彼がエレガントな方法で度々開催していた舞踏会や晩餐会のおかげで、鍋島公使は王室と上流階級において「プリンチペ・ナベシマ」として人気を博し、当時のイタリアの新聞にも取り上げられ、イタリア社会においても非常に良い印象を残していた。その上、公式手段を通じてだけでなく非公式会談を通じても鍋島公使は、旧駐日イタリア特派全権公使アレクサンダー・フェ・ドスティアーニ伯爵をはじめとするイタリア王国の支配階級の影響力のある人物たちとの強固な人脈を利用し、1880年代前半に日伊間の条約改正交渉において非常に積極的な役割を担った。

(5) 前述の発表と論文で発表した研究成果に加えて、井上外務卿時代(1879-1887年)においてイタリア王国が日本との条約改正問題に対してとった外交政策も詳細に検討した。そのために、主にイタリア外務省歴史外交資料館からメールで送信していただいたいくつかの史料(書簡)を参考にし、この情報源に日本外務省外交史料館で保存されている史料を補足して分析した。その結果、1872年から1887年の間にイタリア側が井上馨外務卿が行った「条約改正予議会」と「条約改正会議」にあたり欧米列強間の勢力均衡の調整役として決定的な役割を果たすことによって日本における自国の貿易を拡大させようとしていたという結論に至った。検討内容は、2020年8月に行われる予定であったが、コロナ感染拡大の影響で2021年8月末に延期された「EAJS」(ヨーロッパ日本研究協会)の第16回国際会議において発表することになった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 3件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 POZZI Carlo Edoardo	4. 巻 70
2. 論文標題 駐イタリア日本特命全權公使鍋島直大と日伊関係史におけるその役割(1880-1882)：日伊両国の一次史料を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 イタリア学会誌	6. 最初と最後の頁 99～123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 POZZI Carlo Edoardo	4. 巻 50
2. 論文標題 L'attivita commerciale della Kawajiri-gumi a Torino (1880-1885) e la crisi del mercato serico italo-giapponese negli anni 1880	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Mediterranea - ricerche storiche	6. 最初と最後の頁 671～696
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 POZZI Carlo Edoardo	4. 巻 19
2. 論文標題 Il Ministro Plenipotenziario in Italia Asano Nagakoto e il suo ruolo nelle relazioni italo-giapponesi negli anni 1882-1884: da un'analisi delle fonti primarie giapponesi	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Orientalia Parthenopea	6. 最初と最後の頁 223～238
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 1件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 POZZI Carlo Edoardo
2. 発表標題 Le relazioni italo-giapponesi e il problema della revisione dei trattati negli anni '80 dell'Ottocento
3. 学会等名 13th Conference of "MANABU" at ISEAS (Italian School of East Asian Studies) of Kyoto. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 POZZI Carlo Edoardo
2. 発表標題 Kawajiri-gumi 's commercial initiative in Turin (1880-1886) and the Italy-Japan silk trade in early Meiji period
3. 学会等名 The 3rd EAJS (European Association for Japanese Studies) Conference in Japan (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 POZZI Carlo Edoardo
2. 発表標題 駐イタリア日本特命全権公使浅野長勲の外交活動についての政治的考察 1880年代前半における日伊外交関係を軸に
3. 学会等名 67th Conference of ITARIAGAKKAI (Association of Italian Studies in Japan)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 POZZI Carlo Edoardo
2. 発表標題 駐イタリア日本特命全権公使鍋島直大と日伊関係史におけるその役割ー日伊両国の一次史料を中心にー
3. 学会等名 2019 Conference of BUNKASHIGAKKAI (Japanese Association for Cultural History Studies)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 POZZI Carlo Edoardo
2. 発表標題 A political consideration on the Japan-Italy Treaty Revision Relations during the Inoue Kaoru Foreign Affairs Era (1879-1887): Centering on Official Japanese Primary Sources
3. 学会等名 The 16th EAJS International Conference EAJS (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------